

中央区 自治協議会だより 第16号

平成29年3月5日発行 発行：新潟市中央区 自治協議会だより編集委員会 電話：223-7023(地域課内)

中央区自治協議会の活動内容を「自治協議会だより」で年3回お知らせします。

区民の皆さんと行政との「協働の要」である区自治協議会では、地域の特色あるまちづくりを進めるため、38人の委員が区役所と連携しながら活動しています。

自治協議会の議事の内容はホームページ(http://www.city.niigata.lg.jp/chuo/torikumi/jichikyo/kaigi_kaisai) = QRコード = で公開しています。



平成28年10月
～29年1月

区自治協議会の主な議事 (抜粋)

平成28年10月から29年1月までに毎月開催した中央区自治協議会全体会での議事や報告事項の中で、委員が質問・意見・提案を述べたものを抜粋し紹介します。

▶区自治協議会の見直しについて (10月)

事務局 区自治協議会運営指針の改正について説明

委員 『協働』や自治協が担う役割の定義の明確化、幅広い年齢層が自治協に参加できるような環境づくりの検討を要望。

▶中央区社会福祉協議会が作成した「ゴミ屋敷支援ガイドライン」について (11月)

委員

中央区社会福祉協議会から選出された委員および同協議会職員が、同協議会が平成23年度から取り組んでいる「ゴミ屋敷」への支援を説明。

委員全員で同協議会との具体的な連携の可能性を模索し、学生による片付け支援ボランティアなどの情報を共有した。

▶中央区役所の移転について (12月)

事務局 2階から5階までのフロア構成案を説明し、オープン予定時期を平成29年夏ごろと公表。

委員

1. 取得費の妥当性および改装費について意見交換
2. 東区社会福祉協議会が東区役所内に入居し円滑に連携が取れていることから、中央区でも同様の手法がとれないか意見交換
3. 「質の高い行政サービス」「まちなかの賑わいを創出」「利用しやすい区役所」「人にやさしい区役所」「親しまれる区役所」の具体例について意見交換。役所が休みの土日および祝日も賑わいが生まれる工夫を要望。

▶区自治協議会の部会の編成について (1月)

議長 これまで以上にさまざまな地域課題にきめ細かく対応できるよう、現在の3部会体制から「地域活性化部会」「暮らし部会」「教育部会」「水辺とみなと部会」の4部会体制にする案を説明。委員に意見を募集し、総務運営会議で最終案をとりまとめ、第11回自治協議会に諮ることとした。

第5期中央区自治協議会を振り返って

会長職を2年全うすることができましたが、就任当初から「区自治協議会はまだまだ区民の関心が低い。どのようにすれば関心を持ってもらえるか」と考えさせられる2年間でした。

そこで、第5期中央区自治協議会では、まずは委員を選出している地域コミュニティ協議会や各種団体に自治協議会の会議内容を理解してもらおうと、会議概要などできるだけ早く委員に送付し、委員が所属する団体の皆さんに会議の内容をお伝えするよう、協力をお願いしました。

この取り組みは他区の自治協議会でも共有され、自治協議会の認知度向上への一助になったのではと思います。

第6期自治協議会でも、自治協議会の認知度がさらに高まることを願っています。



会長 豊嶋直美

第5期
(平成27・28年度)

各部会の活動

第5期自治協議会の活動も残りわずか。この2年間の取り組みを各部会の座長が振り返ります。

水 辺とみなとのまち部会

第4期(平成25・26年度)の当部会が提言した「北前船時代の新たな街並みづくり」を検証し、みなとまち新潟の歴史や文化、未来の新潟の新たなまちづくりに資するよう、部会自らできることに取り組んだ2年間でした。

27年度は、2019年の開港150周年を見据え、他の開港4都市および全国34都市の開港記念事業調査を行い、各都市の取り組みをまとめました。

28年度は、小学生の親子を対象に、新潟の歴史、文化、地域をめぐるまち歩きでみなとまち新潟を

知ってもらおう企画を実施しました。

また、2年を通じて、北前船にゆかりのある下町地域のコミュニティ協議会やまちづくり団体と情報交換を行い、連携強化に努めました。

当部会での取り組みが、みなとまち新潟への想いととも、今後生かされていくことを願っています。ご協力いただいたすべての方に感謝申し上げます。

座長 藤田孝一



人 にやさしい暮らしのまち部会

「地域コミュニティを活性化する方法としての防災活動」をテーマとして2年間活動してきました。

27年度は「自助」の観点から、「わが家の備えのチェックシート」を作成し、大地震への備えについて家族で話し合うきっかけにしてもらいました。

500を超える区内全ての自治・町内会から協力いただき、シートを全戸配布したほか、区内の小・中学校にも持参しました。

28年度は「自助」から「共助」へ結びつけるため、災害時要援護者制度の周知状況などについて自治・町内会にアンケート調査を実施し、

370以上の自治・町内会から回答を得ました。

アンケート結果の分析をもとに、市(区)の担当部署と協議を重ね「緊急連絡網づくり」「安否確認方法」「避難所までの搬送方法」などの手引き書を作成しました。今月末に区内全ての自治・町内会へ配布する予定です。

大規模災害が発生しないことを願いつつ、災害に備える「心」の大切さを区民みんなで共有したいと考えています。

座長 田村勝義



拠点と賑わいのまち部会

「未来に備えた地域の賑わい創出・活性化」をテーマに、27年度は部会での事業案を12案に絞り、市民にグループインタビューを実施しました。

28年度はその結果をもとに、次の5案にまとめました。

- ①「憩いのサードプレイス」やすらぎ提のオープン化事業
- ②新潟丸ごと物産館・なつかしき未来の街・お年寄りが集まる賑わいの古町づくり
- ③鳥屋野潟南部の未来産業・湖畔周辺の賑わい提案
- ④新潟時間の時報塔の鐘が鳴る萬代橋を作ろう
- ⑤空き家・空き地を使ったシェアハ

ウスによる地域まちづくり

これら5案について、各商店街などの関係者に再度調査・検討を実施し、昨年11月にはクロスパルにいがたで市民公開フォーラムを開催。パネル討論などを行いました。参加者からのアンケートには「いろいろな視点からまちづくりを考え提案することに感銘を受けた」など好意的な感想が多く寄せられました。

当部会が調査・検討したこの5案が、超高齢社会、人口減少社会に役立てられることを願っています。

座長 浅野昌禧



自治協だより編集委員会 ■初の特別号発行と自治協の見える化

編集部会では、これまで中央区だよりおよび市報にいがたと一体的に発行していた自治協だよりについて、今年度は初の試みとして特別号を7月に単独で発行しました=写真=。

表紙は自治協委員の所属や地域が一目でわかるようなレイアウトとし、「中央区自治協女子会」を企画して委員の率直な意見をお届けしました。また、特別号以外の号でも委員の写真を掲載するなど、自治協をより身近に感じ

ていただけるよう委員一同で工夫しながら「自治協の見える化」に取り組んでまいりました。

自治協の「自治」は、読んで字のごとく「自ら治めること」です。委員だけではなく区民の皆様から自治会や町内会、コミ協、区役所それぞれの役割をご理解いただき、主体的に自治に関わっていただくことで、自治協は協働の要としての機能を十分に発揮できます。

自治協だより編集部会は、今後も自治協の活動をわかりやすくお伝えするよう努めてまいりますので、区民の皆様まのご協力をよろしくお願い申し上げます。

座長 井上基之



※中央区だよりは2・3面に掲載しています